

昭和電工株式会社 2020年3Q 決算説明会 Q&A 要旨

日時：2020年11月5日（木）17:30～18:30

説明者：代表取締役常務執行役員 CFO 竹内 元浩

* 内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 3Qの業績を8月予想比でどう評価するか。

A 総じて言えば、8月予想比並みで推移している。石油化学、昭和電工マテリアルズは順調だが、無機は厳しい。

Q 特別損失の計上は3Qまで約100億円であり、通期予想240億円をどう見ているか。

A 今後業績の進捗を見る必要があり、変動する可能性もある。

【化学品】

（電子材料用高純度ガス）

Q 2Q比3Qの営業利益は横ばいとのことだが、お客様の業績と来年の考え方は。

A 販売量・価格は横ばいで、多様なガス種の中で構成の変化はある。お客様では韓国、中国メーカーが好調。ディスプレイ向けは、韓国国内で液晶モニター縮小の懸念もあるが、今のところ堅調。来年は2桁成長を見込んでいる。

【エレクトロニクスセグメント】

（HD）

Q 4Qをどう見ているか。

A 4Qはデータセンター向けが堅調で、3Q比増加すると見込む。

（LIB 材料）

Q 2Q比で3Qは増収となったがなぜか。

A 当社は SPALF[®]と VGCF が主要製品。SPALF[®]はリモートワークの動きもあり PC、スマホ、タブレット向け販売が堅調。VGCF は中国での EV 車販売が前年比プラスとなったことも影響。

【無機セグメント】

（黒鉛電極）

Q 3Qから4Qへの見方と顧客での在庫適正化後の来年の販売量、価格見通しは。

A 3Qの販売量は2万t台半ばとなり2Q並み、価格は2Q比下落した。4Qの販売量は3.5万t程度を見込み、8月に想定した下期6万t程度の想定線にある。4Qの価格は3Q比で若干下落するが、落ち込み幅は2Q比3Qの価格より小幅となる。販売量は今年年間10万t強。21年は受注量の積み上げ前だが、現時点の見込みは13万t程度までの回復を見込む。価格は数量増加に遅れて上昇すると見ている。顧客在庫の調整は進んでおり、4Qに数量が増加しても適正レベルを維持する。

【昭和電工マテリアルズ】

Q 2Q比で3Qの改善理由は。

A 増益基調の牽引役は情報通信事業。CMP スラリーや配線板材料等がリモートワーク、データセンター向けサーバー、スマホ新機種対応等で勢いを増した。モビリティ事業はコロナ禍の影響で自動車生産台数が落ち込んだが、3Qは想定以上に台数が回復した。依然厳しいまだが、4～6月が大底で足元ではかなり改善が進んだ。

Q 昭和電工マテリアルズの会計基準は、年間ののれん償却額は下期予想の倍の380億円程度と見て良いか。棚卸資産ステップアップは一過性か。

A 昭和電工マテリアルズは IFRS ベースの連結。のれん償却額は下期倍の380億円程度で良いが、PPA 修正後に若干動く可能性はある。棚卸資産ステップアップは今年一度限りの一過性。

以上

* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・COVID-19 拡大が世界経済に与える影響、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2020年11月5日発表の弊社決算短信をご参照ください。